

海外研修視察報告書

令和1年11月5日

長崎県議会議長 様

長崎県議会議員 川崎 祥司

海外研修視察を実施しましたので、つぎのとおり報告いたします。

- 1 日程 令和1年10月28日 から 令和1年11月1日 まで (5日間)
- 2 訪問国 中華人民共和国
- 3 調査目的 (申請時に記載された調査目的)
 - 企業の長崎県内への誘致について
 - 日本の大学の中国内設置と人材交流について
- 4 調査事項 (申請時に記載された調査事項)
 - 企業の規模や業種、日本の法的規制等との差異、長崎県内企業との連携、雇用増加に対する取り組み等について
 - 日本の大学の中国内設置に向けた諸条件等について
- 5 調査結果 (別紙により作成)
- 6 調査により得られた成果及び県政への反映方策
世界的な課題であり、深刻な状況となっている廃棄プラスチック・ビニール類の処分について、これらをペレット化し、生活用品に加工する企業の長崎進出の可能性を確認できた。
一方、原材料の獲得は競争が激化しており、早急な対策が必要である。
また工業系で中国内トップクラスの大学は日本の大学や企業との連携で、世界に対抗できる製品開発に意欲を示している。
以上より議会質問等を通し、各々実現に向け取り組みたい。

1. 企業視察(福建省)

- 視察日時 2019年10月29日(火) 9:30~14:00
- 応対者 有限会社サンスダ 社長、副社長、社長助理ほか
- 調査事項 企業活動を通じた環境課題への取り組み(その1)
- 調査内容

(1) 企業概要

有限会社サンスダは、20ha の広大な敷地を活用し、世界的な課題となっている廃棄プラスチックやビニールのリサイクル業を行い、ペレット化した後、フロアマットを中心にシューズや建材を製作し、国内のみならず、ロシア、アメリカ、ヨーロッパ地域、日本に輸出している。



(2) 工場の稼働状況について

かつて原材料は、日本など海外からの輸入廃棄物だったが、2018年からの輸入禁止により、長江デルタ地域より調達している。

選別は、人海戦術。破碎、洗浄は大型機器を2ライン設置。ペレット化後、別建屋にて、着色し、パネル状の素材に加工。以降、企業ニーズに応じ、完成品と半製品に仕上げる。

処理能力は220t/日あるが、材料調達難で、現在40t/日に留まっている。

排水を外部に一切出さない処理場を完備し、処理水は再度洗浄に供しているが、政府の環境基準よりさらに良質の処理水まで浄化している。



○調査の成果

去る9月経営陣トップの来崎を受け、長崎進出を検討中との意思を伺い、企業理念と事業概要、工場稼働状況について説明を受けていたが、実際施設を視察すると、よりクオリティの高い処理状況だったことが確認できた。

とりわけ、排水処理は、十分な時間と費用をかけて、一切外部に排水しない処理法は見事であった。廃棄物許認可業務の専門家からも、日本で十分クリアできる技術との高い評価があった。

今後、日本で展開するにあたり、以下の課題を認識した。

- ①目標とする材料廃棄物の種類と量の確保
- ②労働力の確保
- ③適正な場所の確保
- ④海外資本の日本における企業活動制限の有無

○所感

現地視察により、環境に配慮した施設づくりであることや、地球環境保全に真剣に取り組む姿勢を確認することが出来た。

廃棄プラスチック・ビニール類の国際的課題に貢献する企業として期待するとともに、雇用の確保が必要な長崎県において、企業の進出に協力していきたい。



2. 大学視察(福建省)

- 視察日時 2019年10月29日(火)16:00～17:30
- 応対者 ハルピン工業大学福建省分校、主任ほか
- 調査事項 日本の大学と企業間交流について
- 調査内容

(1)ハルピン工業大学福建省分校の概要

同分校は、中国政府より運営費を受け、企業からのニーズに応じ、主に産業ロボットの開発及び生産を行っている。

基礎は、軍事用の監視システムなど開発から技術を構築し、中国トップレベルの水準にある。



(2)日本との交流推進

ハイレベルの技術を有することから、日本の大学や企業との連携で、世界的に通用する製品開発への意欲を確認した。

○調査の成果

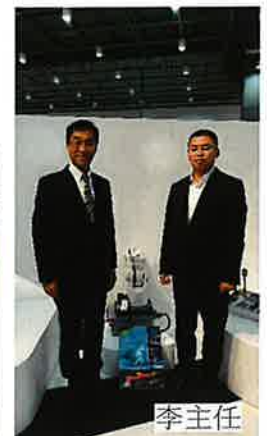
同校には、開発品を紹介する展示施設を設けているが、展示された産業用ロボットや日用品等、高い技術を有していることがわかった。

また、大学と企業間連携は、日本も行っているが、同大学の高度な技術を生かすには、日本で有益な分野を検討していく必要があり、日本の大学の中国サテライト設置は、ステップを踏まなければならない。



○所管

長崎には大学のみならず佐世保高専など専門校もあり、交流の幅は広いと考える。また長崎県の施策としてIT、産業ロボット分野の成長に力点を置いていることから、交流について模索していきたい。



3. 企業視察(江蘇省)

- 視察日時 2019年10月30日(水) 11:00～14:00
- 応対者 有限会社サンスダ 副社長、江蘇支店長ほか
- 調査事項 中国企業における環境課題への取り組み(その2)
- 調査内容

(1) 支店の概要

広大な中国において、戦略的に北部拠点として、7年前に設立され、ペレットを本社から移動させ、製品加工に特化した事業を展開している。フロアマットを主力にし、生産量は本社を上回る。



(2) 工場の稼働状況について

当工場も、完全な企業ニーズに合わせた製造になっており、完成品と半製品を仕上げている。製品によっては、2交代制で対応している。



○調査の成果

世界各国への販路拡大をにらんだ生産拠点の整備であり、約300人の従業員にて操業していたが、遠方からの職員もおり、敷地内に社宅を整備するなど、福利厚生も充実している。工程のOA化は、まだ余地があると感じた。

○所管

支店長も日本進出に積極的であり、11月に来日する考えを伺った。企業風土からも日本における展開について、協力に値すると思料する。

4. 長崎県上海事務所との意見交換

○視察日時 2019年10月31日(木) 17:00～18:00

○応対者 長崎県上海事務所所長

○調査事項 サンスダ社の長崎進出について

○調査内容

サンスダ社の日本展開に対する課題について意見交換を行った。

○調査の成果

上海事務所長との意見交換により、課題が浮き彫りとなった。

これまで、中国企業の長崎進出について話題は上るが、具体的な進展はなく、とくに工場系はスケールが合わず、立ち消えとなるケースが多いとのこと。

土地については、管理自治体の考え方によるが、海外資本企業との間では、売買のみならず、賃貸も考えられるとのこと。また、企業立地に関する支援は、「県外企業」との扱いで可能性はあるが、確認が必要となる。

最大の課題は、材料調達であり、今後縮小が予想される廃棄プラスチック類を、一定数量長崎でどう収集確保していくかである。

○所管

中国企業の経営理念と、政府の企業支援など、日本国内との差異を確認でき、さらに具体的な課題も整理できたことから、実現に向け作業を進め、これまで、長崎になかった業態と規模の企業進出を促進し、地元雇用の拡大に取り組んでいきたい。

長崎県は福建省と友好関係であるが、経済、学術交流への取り組みは実績が乏しいことから、今次企業や大学との交流を機に、多方面での連携を検討し、長崎県勢浮揚に努めたい。

以上